

活動を把握する調査の検討

国土交通省 都市局
都市計画課 都市計画調査室
令和6年2月

本日（今回ご意見伺いたいこと）

○活動を把握する調査の意義、活用方法について

- ・調査の意義について、不足している視点はないか。
- ・調査結果の活用方法について、他に何に使えるか。

○調査実施上の留意点について

- ・他に留意すべき点はないか。

今後の検討事項

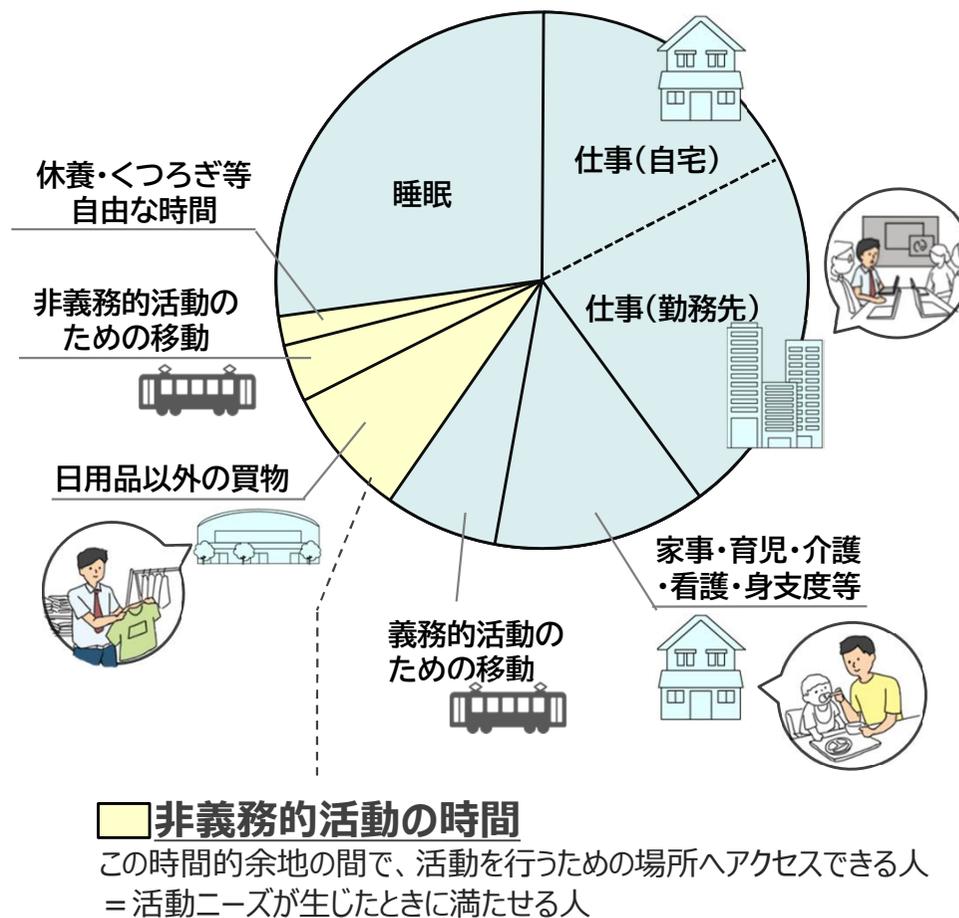
活動を把握する調査の調査仕様を再検討し、
実都市において試行調査を継続。

- 第9回検討会において、インスペクション調査の結果と、活動をどの程度詳細に把握する必要があるのかを議論した。
- 24時間を義務的活動による拘束時間と非義務的活動の時間に分けて把握できるように設計することを確認した。

以下の活動について、活動の実施有無と時間を調査

分類		活動
義務	仕事・学校 	仕事（デスクワーク）
		（会議・打合せ・営業等）
		（販売・仕入れ等）
		（その他の仕事）
	学業	
	維持活動 	食料品・日用品の買物
		つきそい
		家事・育児・介護・看護・身支度 ・自宅等での食事
		睡眠
		通院・デイサービス
（その他）		
非義務的活動 	食料品・日用品以外の買物	
	外食・社交	
	娯楽・文化活動	
	運動・散歩・ジョギング	
	観光・行楽・レジャー	
	塾・習い事・学習	
	その他私事	
	休養・くつろぎ等自由な時間	

24時間を、義務的活動による拘束時間と非義務的活動の時間に分ける



※送迎の時間は「義務的活動」として分類。

- 本日は、Webモニターを対象とした試行調査を実施した結果について提示する。

調査項目 の検討

第9回検討会：活動調査の考え方と調査項目を確認

インスペクション調査を実施

活動有無や活動時間を回答できる活動、できない活動が存在することが明らかに
どの活動をどこまで詳細に調査するかを検討

第10回検討会：

活動を把握する背景、必要な指標、分析、施策検討の枠組みを整理

ユース ケース 開発

活動を把握する意義と、活用方法の再整理

試行調査の結果、把握できた活動パターンと課題を提示

本日の
内容

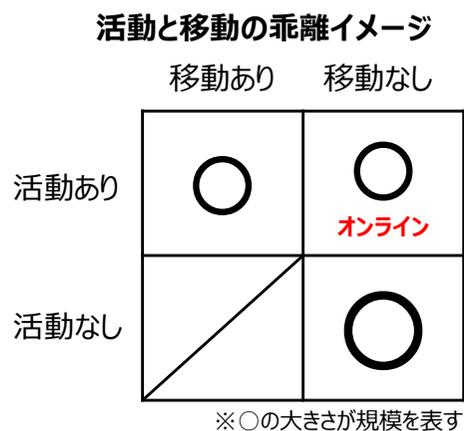
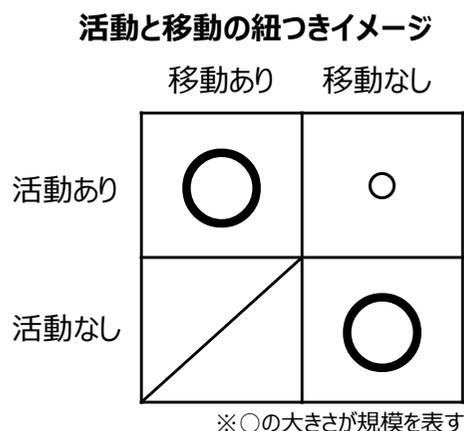
- オンライン化の進展により、**移動と活動の乖離**や**都市に求められる機能の多様化**が進んでいる。
- 従来は活動を行うには多くの場合移動が必要であったが、オンライン化が進み移動せずとも活動が可能となったことで、**移動を捉えるだけでは、移動の発生要因である活動を含めた移動の実態の理解が困難**となった。
- オンライン化の進展により、**土地利用や施設種類の通りに場所が使われない場合が増えている**と考えられ、都市の魅力を高めるためには、いかに都市の多様性を高めて様々な活動が可能な場所とするかが課題である。

人の移動と活動の乖離

- オンライン化が進み活動と移動が対応しない場合が増えたことで、従来のPT調査では、都市交通で改善すべき領域を捉えにくくなった
- 活動を把握することで、活動の有無と移動の有無を独立して捉えることができるようになり、都市交通で改善すべき領域をより明確にすることができると考えられる

都市に求められる機能の多様化

- 価値観の多様化にともない、都市に求められる機能の多様化が進んでいる
- オンライン化の進展で場所に依存せず活動することができるようになったことで、都市に求める機能の多様化がさらに進展する可能性がある
- 活動を捉えることが都市づくりの基礎的な情報として活用できる可能性がある

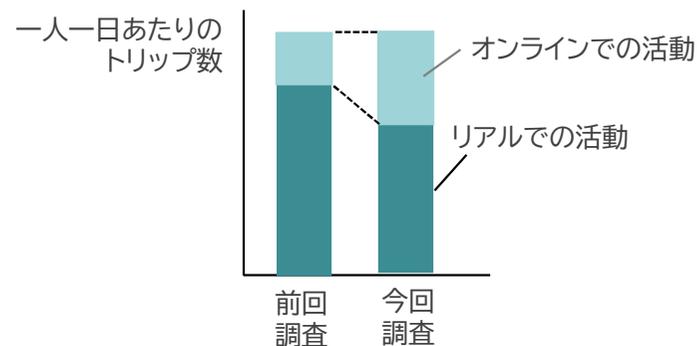


- 活動を把握する調査の結果を用いて、移動の増減の要因を、属性別・居住地別に分析できることが期待される。
- これにより、活動の実施水準を高める土地利用や交通のありかたを展望する。

分かること

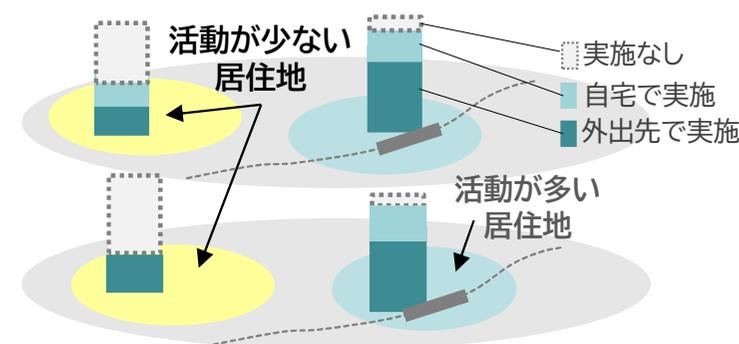
移動の増減の要因が分かる。

活動の増減によるものか、
移動せずに活動が行われることによるものか、が分かる。



移動の増減の要因が、 属性別・居住地別に分かる。

活動が少ない、時間的にゆとりがない、といった
問題を抱える居住地や属性を分析して、
移動の発生要因や制約を理解する。



活用方法

- 活動の実施水準に影響を与える要因を分析、活動の実施水準を高める将来の土地利用と道路と公共交通のNWを展望する。

- 前述した指標の算出とそれによる分析が可能かを検証するために、**Webモニター調査による試行調査を実施した。**
- 札幌市および道央都市圏を対象に、**属性別・居住地の交通利便性別に層化抽出を行った。**

方法	Webモニター調査
対象地域	札幌市 ただし、札幌市のみではサンプルが不足する場合は 道央都市圏に対象を広げる
抽出方法	以下の項目ごとにカテゴリを設定し、 カテゴリごとに100サンプルを上限に層化抽出。 <ul style="list-style-type: none">• 年齢（高齢/非高齢）• 就業の有無• 居住地の利便性（運行間隔15分以下の駅あるいはバス停まで 徒歩10分圏かどうか）• 自由に使える自動車の有無• 10歳未満の子供の同居有無
調査画面	従来のPT調査の調査票をベースに、 睡眠時間、活動の有無、活動時間を追加して作成 ※分析に使わない部分は適宜省略
調査時期	2024年1月12日（月）～2024年1月19日（金）



調査対象範囲

Q7

午前3時からこの場所を出発するまでに実施した活動すべてについて、活動時間を記入してください。

(この日この場所から移動しなかった場合は翌午前3時までの間に実施した活動について記入してください)

		時間	分
1	仕事(デスクワーク)	<input type="text"/> 時間	<input type="text"/> 分
2	仕事(会議・打合せ・営業等)	<input type="text"/> 時間	<input type="text"/> 分
3	仕事(販売・仕入れ等)	<input type="text"/> 時間	<input type="text"/> 分
4	仕事(その他の仕事)	<input type="text"/> 時間	<input type="text"/> 分
5	学業	<input type="text"/> 時間	<input type="text"/> 分
6	食料品・日用品の買物(オンラインショッピングを含む)	<input type="text"/> 時間	<input type="text"/> 分
7	食料品・日用品以外の買物(オンラインショッピングを含む)	<input type="text"/> 時間	<input type="text"/> 分
8	通院・デイサービス	<input type="text"/> 時間	<input type="text"/> 分
9	外食・社交	<input type="text"/> 時間	<input type="text"/> 分
10	娯楽・文化活動	<input type="text"/> 時間	<input type="text"/> 分
11	運動・散歩・ジョギング	<input type="text"/> 時間	<input type="text"/> 分
12	塾・習い事・学習	<input type="text"/> 時間	<input type="text"/> 分
13	つきそい	<input type="text"/> 時間	<input type="text"/> 分
14	家事・育児・介護・看護・身支度・自宅での食事	<input type="text"/> 時間	<input type="text"/> 分
15	休養・くつろぎ等	<input type="text"/> 時間	<input type="text"/> 分
16	睡眠	<input type="text"/> 時間	<input type="text"/> 分
17	その他 <input type="text"/>	<input type="text"/> 時間	<input type="text"/> 分
合計		0	0

Q8

この時、この場所で10歳未満の子供と一緒にいましたか。

- 1 ○ はい
2 ○ いいえ

Q9

この日、この場所から次の場所へ移動しましたか。

- 1 ○ はい
2 ○ いいえ

【Q9で【はい】の方へ】

Q10

この場所の出発時刻を回答してください。

※26時59分まででお答えください。

※翌日1時の場合は25時のように、お答えください。

時 分

買物は含まない。
【食料品・日用品以外の買物】
家具・衣類・電気製品・贈り物などの買物 ※オンラインでの買物を含む。※仕事での買物は含まない。
【通院・デイサービス】
診療、治療、検査、リハビリなど、デイサービス(通所介護)施設での、食事、入浴、機能訓練など ※つきそいや見舞いは含まない。
【外食・社交】
飲食店、仕事場などでの食事・飲食、学校給食、知人との飲食・飲み会、知人との会話・通話、知人とのメール・SNSでのやり取り、私的なつきあいやパーティ、会合、冠婚葬祭など
【娯楽・文化活動】
スポーツ観戦、音楽・美術・映画の鑑賞、パチンコ・麻雀・ボウリングなど、趣味としての読書・ゲーム・料理・制作活動・楽器演奏など
【運動・散歩・ジョギング】
散歩、ジョギング、ランニング、スポーツクラブ・ジムなどでの体力づくり、体育館での運動など
【観光・行楽・レジャー】
ハイキング、ゴルフ、野球、運動会、温泉、山、名所・旧跡などのへの観光および保養
【塾・習い事・学習】
学習塾等での勉強、けいこ・習い事、自己研鑽を目的とした研修・講習・セミナーへの参加(仕事での参加を除く)
【つきそい】
家族や知人の用事のつきそい
【家事・育児・介護・看護・身支度・自宅での食事】
炊事・食事の片づけ、掃除・ゴミ捨て、洗濯・アイロンかけ・縫い物・布団干し・衣類の整理片付け、家計簿の記入、庭や車の整備・手入れ・家具の修繕、乳幼児の世話、子供の勉強・遊びの相手、家族や親族等の顔見知りに対する、日常生活における入浴・トイレ・移動・掃除などの手助けや看病、入浴・洗顔・トイレ・身支度・着替え・化粧・整髪・ひげそり
【休養・くつろぎ】
家族との団らん、仕事場または学校の休憩時間、おやつ・お茶の時間、食休み、うたたね、上記以外の私事活動(スマートフォンでネットサーフィンをしていた時間など)
【睡眠】
睡眠
【その他】
外出先での散髪・美容・入浴サービス、家庭の預貯金や書類の受領、郵便投函、待ち合わせ等

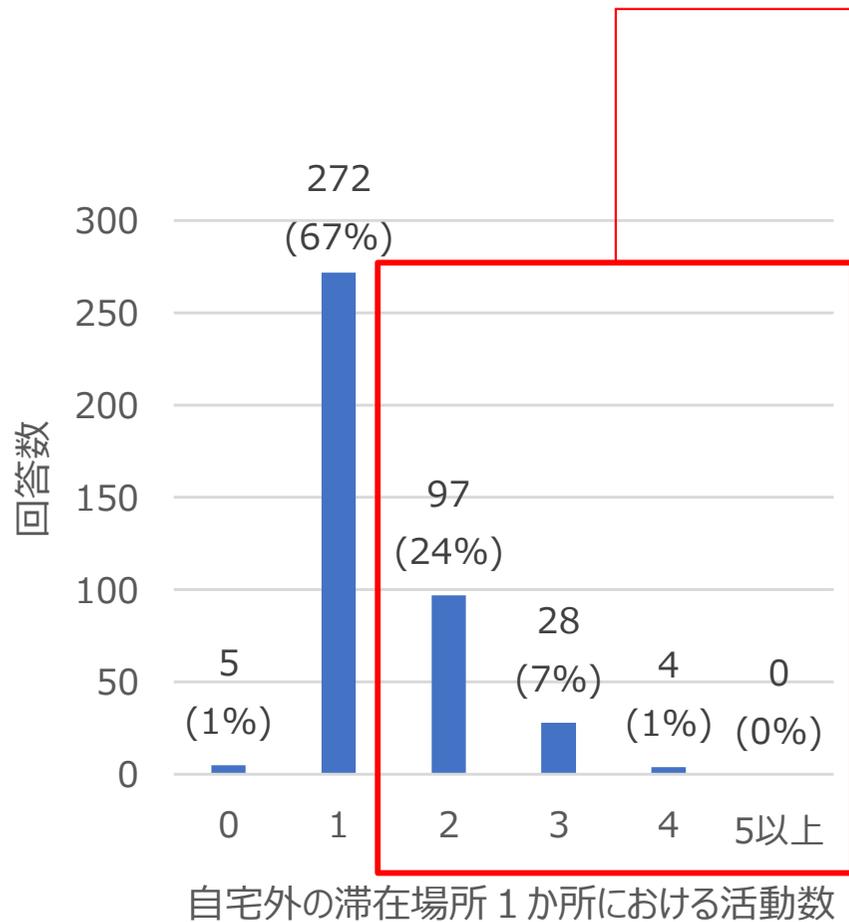
- 多くのカテゴリにおいて、目標サンプル数を達成している。
- 一部、子育て世帯のサンプル数が目標サンプル数に達していないため、分析の際に留意が必要である。

年齢	就業有無	居住地の利便性※1	自由に使える自動車の有無	10歳未満の子供の有無	目標サンプル数	回収数	有効回収数※2
22～64歳	就業者	居住地の利便性該当	自由に使える自動車あり	あり	100	100	86
				なし	100	100	87
			自由に使える自動車なし	あり	100	12	9
				なし	100	100	79
		それ以外	自由に使える自動車あり	あり	100	100	73
				なし	100	100	78
	自由に使える自動車なし		あり	100	14	12	
			なし	100	100	78	
	非就業者	居住地の利便性該当	自由に使える自動車あり	あり	100	18	17
				なし	100	98	90
			自由に使える自動車なし	あり	100	13	12
				なし	100	100	81
それ以外		自由に使える自動車あり	あり	100	57	47	
			なし	100	100	90	
		自由に使える自動車なし	あり	100	15	10	
			なし	100	100	81	
65歳～	非就業	居住地の利便性該当	自由に使える自動車あり	なし	100	100	95
			自由に使える自動車なし	なし	100	95	89
		それ以外	自由に使える自動車あり	なし	100	100	85
			自由に使える自動車なし	なし	100	74	67

※1 居住地の利便性：運行間隔15分以下の駅あるいはバス停まで徒歩10分圏かどうかで分類

※2 有効票の定義：コロナ調査を参考に「1つの活動を18時間以上行っている」「帰宅していない」サンプルを除外したもの

- 自宅以外の滞在場所一か所あたりの活動数は、多くが2つ以下であり、4つ以上あることはほとんどない。
- 2つ以上の活動の組み合わせのうち、多くは仕事と昼食や休憩と思われる活動である。



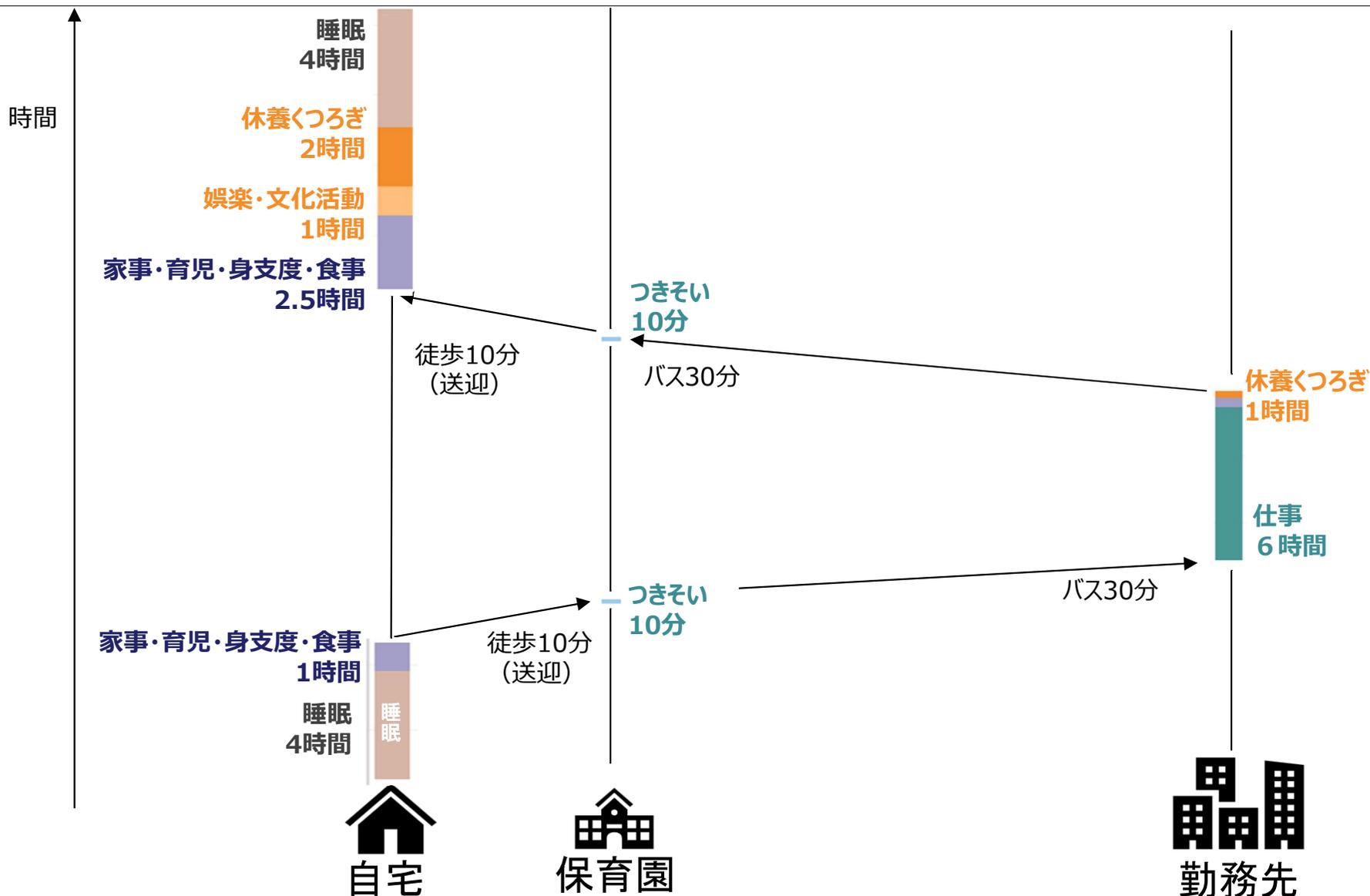
活動の組み合わせ (自宅以外で2つ上の活動を実施した場合のみ)	回答数
仕事, 休養・くつろぎ等	61
仕事, 外食・社交 休養・くつろぎ等	10
仕事, 外食・社交	10
仕事 家事・育児・介護・看護・身支度・自宅での食事 休養・くつろぎ等	5
仕事 家事・育児・介護・看護・身支度・自宅での食事	3
食料品・日用品の買物 (オンラインショッピングを含む) 食料品・日用品以外の買物 (オンラインショッピングを含む)	3
食料品・日用品以外の買物 (オンラインショッピングを含む) 外食・社交	2
仕事 その他	2
仕事 睡眠	2
食料品・日用品の買物 (オンラインショッピングを含む) 外食・社交	2
家事・育児・介護・看護・身支度・自宅での食事 休養・くつろぎ等 睡眠	2
その他 (1つしか回答が出現しなかった組み合わせ)	27
計	129

仕事+昼食や休憩と思われる組み合わせ
(全体の60%強)

仕事+家事や身支度
(全体の約6%)

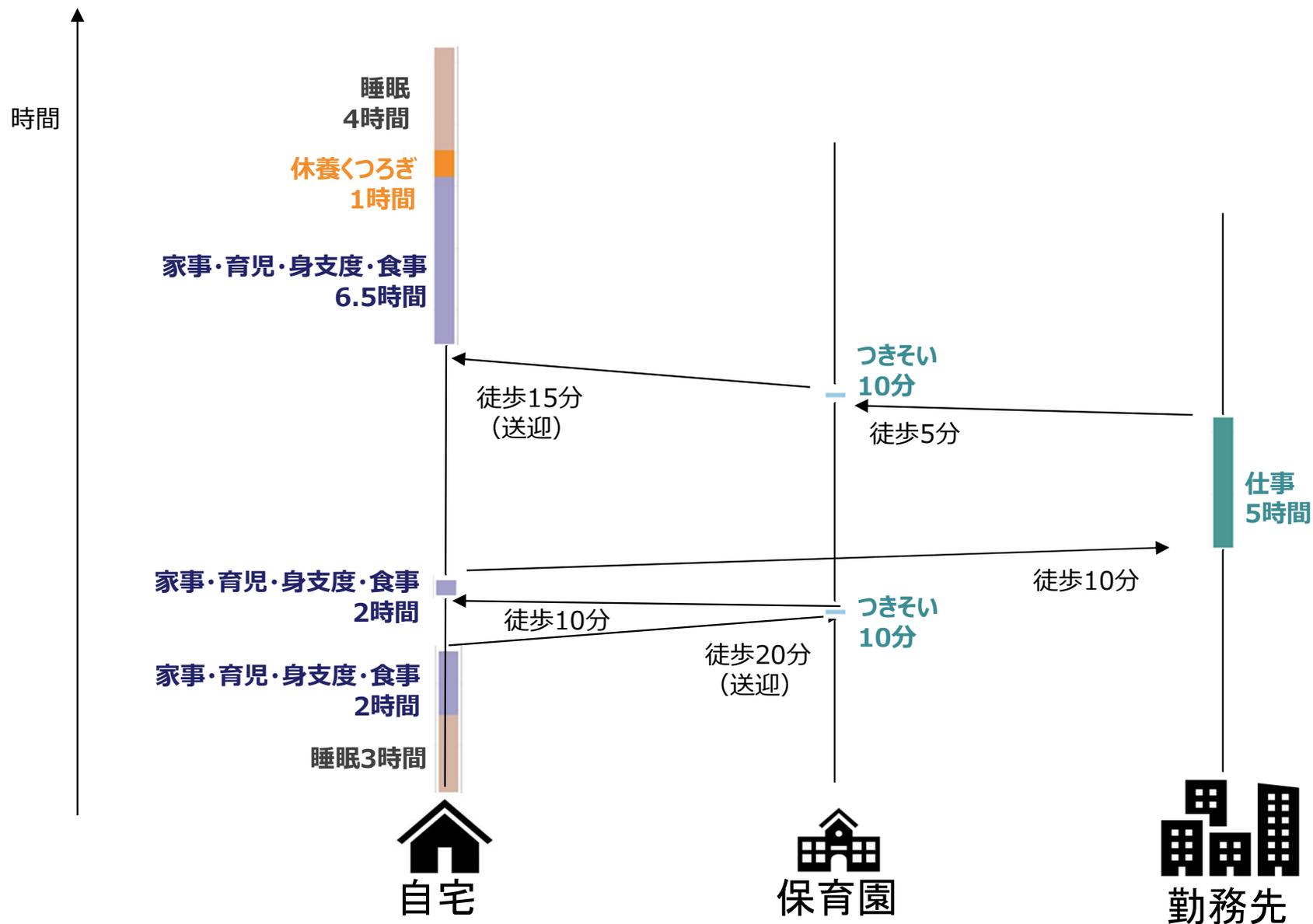
仕事での外出と送迎をしている個人の例

- 通勤と帰宅の際に、保育園に立ち寄って送迎を行っている。
- 通勤にかかる時間は30分、家事・育児・身支度・食事の時間は計3.5時間であり、非義務的な活動に使える時間は3時間ある。

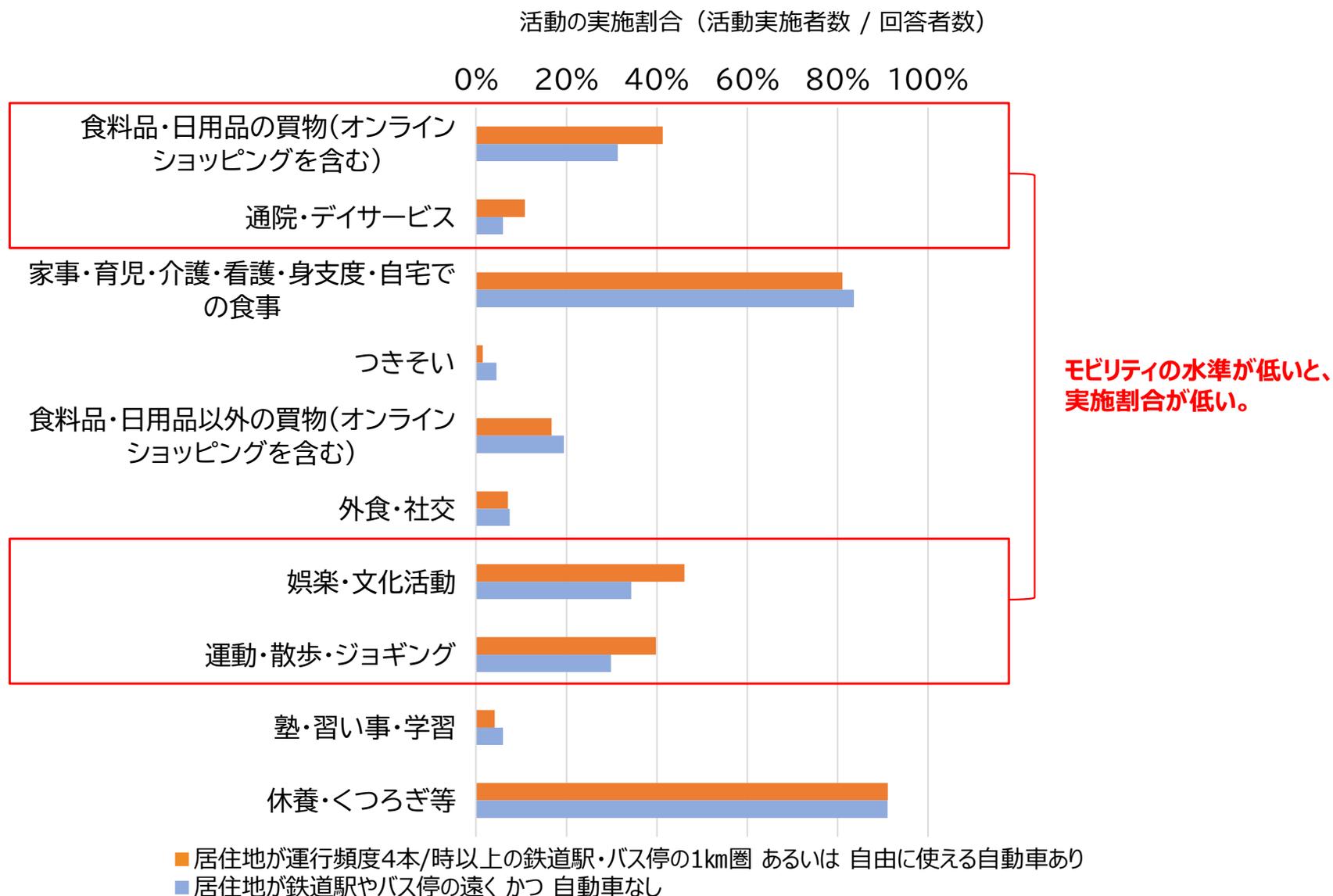


仕事での外出と送迎をしている個人の例

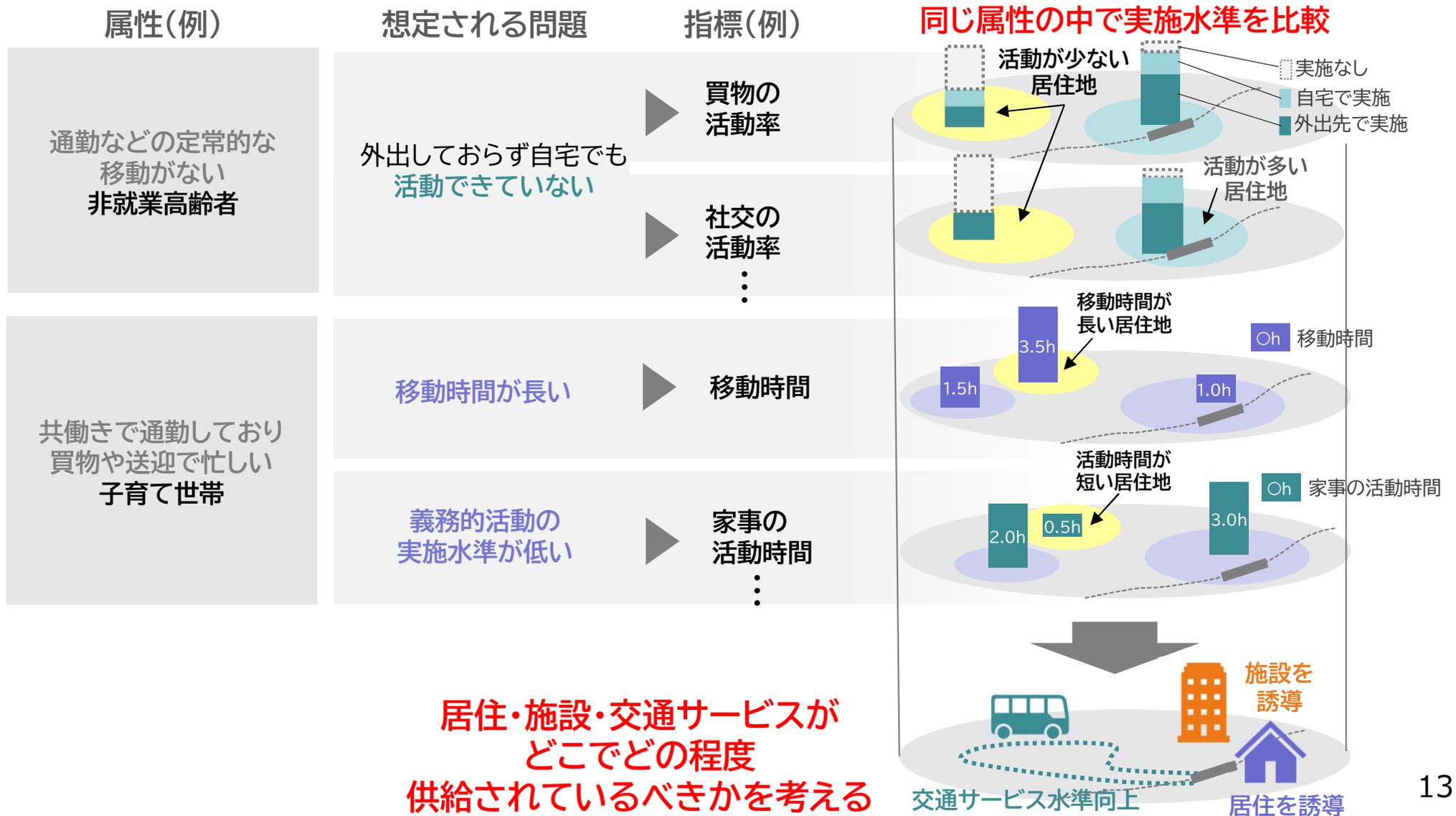
- 保育園への送迎、勤務先への移動は全て徒歩で完結している。
- 自宅での家事・育児・身支度・食事等で多くの時間が割かれており、自由時間は1時間と短い。



- 居住地が一定程度以上の運行頻度の鉄道駅やバス停から遠く、かつ自動車を持たないグループは、一部の活動に関して実施割合が低い。



- 活動の実施状況を把握することで、同じ属性の集団の中で活動の実施水準を比較することで、活動ニーズが満たしているかどうか、活動がしづらい状況にないかを考える。
- 各地区の生活水準や活動水準を高めるために必要な施設、交通サービス、居住の誘導を検討する。



- ・ 不自然な回答が一部存在する。
- ・ 要因として、「**設問の意図が正しく伝わっていない**」「**回答をすぐに終わらせるために事実と異なる回答をしている**」等が想定される。調査を実施する上では工夫が必要。

生じたこと	考えられる原因	対応策
<ul style="list-style-type: none"> ・ 外出率が低い(35%) ・ 自宅での活動が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場所ごとに分けて活動時間を記入することが伝わっていない ・ 回答簡易化のため外出していないことにして回答している ・ 調査日を指定していないため、回答が簡単な日を選んでいる 	<p><調査設計時の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ トリップを落とさない設計 始めに場所と移動を回答し、その後各場所の活動を回答する構成に ・ 回答簡易化への対策 回答結果によって回答負担が変わらないようにする ・ 回答負荷の低減 義務的活動のみなど、活動時間を把握する活動を絞る ・ 調査対象日を指定
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自宅から自宅への移動が記入されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回答簡易化のため、目的地を自宅ということにしている ・ 目的地が滞在場所として記入されていない (例：自宅→保育園→自宅のトリップを、自宅→自宅のトリップとして回答) ・ 自宅内での移動を1トリップとして回答してしまっている 	<p><分析時の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 義務および維持活動に着目し、残り時間を非義務的活動時間として分析する ・ 滞在時間と活動時間の短時間のずれは時間を按分して対応する
<ul style="list-style-type: none"> ・ 退勤後等の立ち寄りが少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回答簡易化のため立ち寄りしていないことにして回答している ・ 調査日を指定していないため、回答が簡単な日を選んでいる 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 休養・くつろぎの活動時間が長い(平均5時間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 選択肢に迷う場合等に「休養・くつろぎ等」と回答している 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 長時間の活動・移動が回答されている ・ 滞在時間と活動時間が異なる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行った活動を束ねて回答している ・ 滞在時間と活動時間が一致するように入力することが難しい 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 帰宅の回答漏れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 帰宅後の活動も回答することが伝わっていない 	